

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2019年8月29日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 農学研究科

職 名・学 年 博士後期課程三回生

氏 名 江欣樺

助成の種類	令和元年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	第82回農村社会学会年度大会 82nd Rural Sociological Society Annual Meeting		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	領域交渉と資源共有:台北都市圏における多地域水資源ガバナンス Negotiating the territory: transboundary water resource governance in the Taipei metropolis		
開催場所	リッチモンド・マリオット(Richmond Marriott), リッチモンド(Richmond), バージニア州(Virginia), アメリカ合衆国		
渡航期間	2019年8月6日～2019年8月17日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	250,000円	
	使用した助成金額	250,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	学会会費	3,710円
		学会参加費	13,868円
		航空券代金	179,443円
		ESTA申請料	1,555円
宿泊費		68,050円	
	計	266,626円(助成金以外自費)	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今回京都大学教育研究振興財団の助成金をいただき、心より感謝申し上げます。申請と報告の手続きが簡単でとても助かりました。		

成果の概要／江 欣樺

今年8月に京都大学教育研究振興財団の国際研究集会発表助成をいただき、無事米国での発表を終了した。今回参加した集会は、農村社会学会によるバージニア州リッチモンドに開催される「第82回農村社会学会年度大会」であった。今年の会議は「圧政と正義」というテーマにめぐって、理論的観点、社会・文化の実践及び政治行動について討議した。国境を超える学会会員の研究、経験、キャリアなどによって、農業生産の倫理と正義、食糧システム、自然資源、健康福祉、行政、犯罪などの分野について幅広い交流を目指している。大学か研究機関のほか、集落・コミュニティに基づいた地域団体の発表も注目を集めていた。また、農村社会学会の年度大会が参加者250人を超えている大規模な集会となり、集会への参加によって農村社会学分野に新しい研究成果を見学し、フィールドもテーマも幅広い研究者と交流しながら、自分の研究視野を広げた。

今回の発表は「自然資源」研究グループに所属する「水資源のガバナンスと管理」というセッションに入られた。同セッションの発表者は地下水マネジメントにおけるコミュニティの住民参加、洪水リスクへの意識、及びニューヨーク市における「水道水かペットボトルの水か」という飲水行為と水道水への信頼感などに関する研究を行い、水資源に関して様々なテーマを報告した。そして自分の発表は、「領域交渉と資源共有：台北都市圏における多地域水資源ガバナンス」というテーマになり、都市部の用水をめぐる環境保全と地域発展のコンフリクトから展開され、「水源地」を政治・技術的に支配できる「領域」として扱い、二つの自治体（台北市と新北市）の間に生じた領域と資源における争いの文脈を遡った。内容分析の手法で、新聞記事、議会議事録などのデータベースからコンテンツを収集し、逐年の変化を把握し、領域を主張する言説（discourse）戦略を分析した。

水資源に関わる研究者の集まりであったため、文化や政治状況の違いにもかかわらず、自分の発表内容も含めて、様々な議論が展開された。自分の研究は方法として新規性があったと称賛され、あと特に指摘されたのは、ニューヨーク市とその水源地であるニューヨーク州の事例がよく似ているということだった。従って、学会会議が終わってワシントンDCへ旅行に行った時も、アメリカ国会図書館で二日間

ニューヨーク市の事例を中心に色んな参考文献を読んだ。

今回の学会では、自分の研究論文を発表するだけでなく、同じ自然資源研究グループのメンバーに誘われて、ライトニングラウンド（Lightning round）にも発表させていただいた。ライトニングラウンドというのは、落雷のように短い発表を連続で行って、一人5分で自分のテーマを説明させて、終わったらすぐ次の人に回るパネルディスカッションの一種であった。この前はライトニングラウンドへ参加したことがなくて、とっても新鮮な経験だった。自分の発表では、「台湾の農村水資源ガバナンスに関わる市民社会の課題」をテーマとして報告した。報告自体は台湾の農村水資源ガバナンスが持っている四つの特徴とそれぞれの対応する課題によって展開した。まずは精密工業の製品で国際貿易に深く関与することで、工業と農業セクターの水争いが生じた。二つ目の課題は、不平均な降水と河川資源によりダム建設とその反対運動により、用水の安定化と過剰開発のジレンマであった。さらに環境運動に動員された市民は、様々な環境保全や教育活動に活躍している一方、政治への参加も進んでいた。とは言え、政府内外にもギャップや矛盾があって、市民団体も持続的な運営に挑戦を直面した。他の発表者は、SNS 時代における環境運動の動員戦略、市民団体の政策作成への参加の枠組み、防災意識の向上など、自然資源というテーマの下に、市民社会の在り方について討議した。自分に対してライトニングラウンドが完全に初体験なので、他の発表から内容のまとめ方、そして表現の仕方についてたくさん勉強になった。

発表以外の時間にも、ティータイムや食事会などで他分野の研究者と交流することができた。特に日本人か日本の大学に研究している研究者が思った以上多くいらっちゃって、今後合同研究の可能性についても話し合った。さらに、学会初日の朝食時間に偶然同じテーブルに座ったアメリカ人が東大の博士後期課程に所属していて、研究対象地がちょうど私が関わっていた事例に似ていて、しかも私の新しく関心を持っているニューヨーク市も、まさに彼の出身地であった。せっかく不思議なつながりができたので、学会期間中にたくさん話していて、これからも交流し続けるように願っている。

今回は最終日に国内航空便の不具合で、旅が一日延長されてしまったが、助成

金のおかげさまで初渡米を無事終了した。学会で報告された論文は、現在執筆している博士論文の中心となり、学会発表を通じて様々なコメントや情報を得て、これからは内容を修正して、国際水資源管理ジャーナルに投稿する予定になる。また、国際研究集会というグローバルな学術の場で、世界中の研究者と交流することができて、今後の研究にも大きな力になると期待している。